

情報サービス業でも環境保全活動は当たり前

エコステージによる環境マネジメントシステム構築で企業理念の実現

株式会社システムエグゼ（本社：東京都中央区 佐藤 勝康社長 創業 平成 10 年 社員 400 名 (<http://www.system-exe.co.jp/>) は、データベースのオールマイティ企業を目指し、特定分野・特定技術におけるプロ集団としての高品質なサービスの提供と、独創的なオリジナル商品開発を通じて、お客様から信頼されるオンリーワン企業へ向けて挑戦し続けています。当社は、プライバシーマーク、情報セキュリティ ISO-27001 の認証を取得し、次のチャレンジとしてエコステージによる環境マネジメントシステムの構築を行いました。

2007 年 7 月 12 日 本社に、第 2 本社、千葉、府中、名古屋の各拠点から社員全員が集まり、エコステージ 1 をキックオフ、そして半年後の 2008 年 1 月 31 日に エコステージ 1 の認証を取得。技術担当執行取締役 高橋 光司氏にエコステージ導入の目的と取組み内容などについてお聞きしました。

<エコステージ導入のきっかけと、目的をお教え下さい。>

高橋氏：社会環境は、経済のグローバル化、高齢化、そして地球規模での環境問題などその構造を大きく変貌しつつあります。その中で、情報サービス産業の果たす役割は益々重要になっています。その一つが多くの取引先やお客様から求められる環境マネジメントシステムの構築です。情報サービス業でも企業市民として環境保全活動の推進は当然のことと考え、エコステージによる EMS 構築を決めました。

<具体的な活動内容を教えてください。>

高橋氏：①省エネルギー活動：社員の意識向上・動機づけのためポスター掲示、消灯活動や未使用機器の電源 OFF を実施。②省資源活動：グループウェアによる電子掲示板の積極的な活用等による、ペーパーレス化の推進。③廃棄物の分別管理・リサイクル化推進：分別のための収集箱を新たに購入して、廃棄物の総量削減とリサイクル化を強力に推進。④グリーン購入の推進：環境配慮型製品の購入品リストを作成し、新規購入品から順次切り替えを実施。

<エコステージ導入による変化や、具体的な効果はございましたか？>

高橋氏：役員、社員そしてビジネスパートナーをも含めた全員参加型の活動が行われ、環境問題・企業としての採るべき対応などが十分理解されたようです。細かいことですが、室内整理・机上整頓が進み、社内美化活動とセキュリティ対策との相乗効果が生まれています。

<活動の中で、ご苦労された点・難しかった点などがございましたか？>

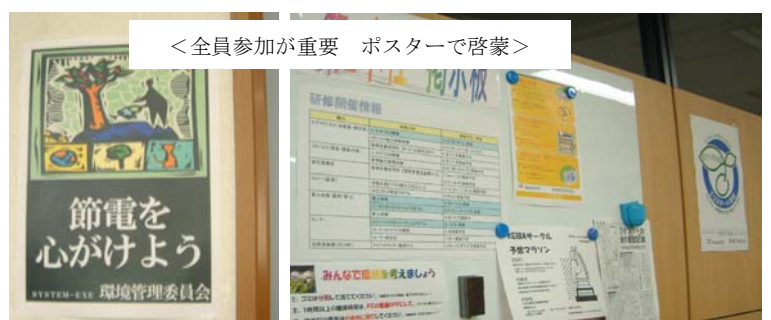
高橋氏：拠点が 5 箇所に分かれており、またお客様先に常駐している技術者もおおり、全社員へのエコステージ活動自体の周知がなかなか浸透しませんでした。しかし、ポスター作成や全社員会議で報告をするなどにより、時間がかかりましたが全社員からの協力を得ることができるようになりました。

<それでは、今後の取り組み計画をお聞かせ下さい。>

高橋氏：エコステージ 2 への挑戦を決めました。本業により密着した活動として『生産性向上委員会』を 1 月より発足し、全社のソフトウェア開発のノウハウを取り纏めることで、生産性（業務効率）を 2 倍にする取組みを開始しました。これは、省エネや社員の健康管理にもつながります。また、『MY 箸会（割箸を止めて、箸持ち歩いてゴミを減らそう）』という独自の展開のグループが立ち上がりました。今後も、自主的な環境活動が展開される社内風土作りを進めていきたいと思っています。



<初回登録評価時の、
社長と環境管理委員会の皆さん>



<全員参加が重要 ポスターで啓蒙>